



NST通信

お知らせ

◆委員会

2月22(木) 16時00分～ 講義室

◆勉強会

3月28(木) 17時40分～ 大会議室

◇NST まめ知識講座：臨床検査技師

◇症例検討：5病棟

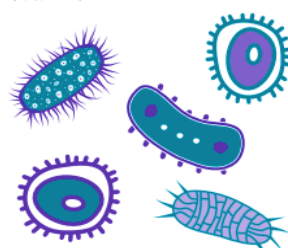


NST 通信では各部署のNST 委員の方に記事担当をお願いしてトピックスなどを紹介しています。今月は**4西病棟**の担当です。ポストバイオティクス®について


「プロバイオティクス（有用菌）とプレバイオティクス（そのエサ）を組み合わせると、もっと効果が出るよね」という考えを「シンバイオティクス」といいます。さらに研究が進み、注目されているのが「ポストバイオティクス®」です。**ポストバイオティクス®とは、食品成分を材料に腸内細菌がつくり出す、健康に有用な代謝産物のことです。**代表的なポストバイオティクス®は、「**短鎖脂肪酸**」です。

ポストバイオティクスの構成成分

ポストバイオティクスは、完全な形のままの無生物形態の微生物細胞、

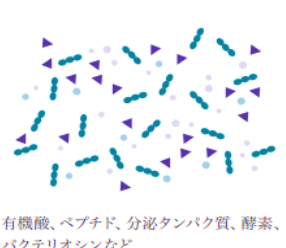


および/または、微生物の細胞断片や構造体を



細胞壁、細胞膜、菌体外多糖、アンカー型タンパク質、繊毛など

代謝産物や生成物の有無にかかわらず含むことができます。



有機酸、ペプチド、分泌タンパク質、酵素、バクテリオシンなど

短鎖脂肪酸の主な働き 腸内環境に寄与する働き



- ①腸内を弱酸性に保ち、有害な菌の発育を抑制して、有用菌の発育を促す
- ②腸の活動エネルギーとなり、ぜん動運動を促す
- ③腸が水やナトリウムを吸収する際のエネルギー源になる
- ④腸管のバリア機能を強化する …など

全身に寄与する働き

- ⑤免疫の働きを整える
- ⑥血糖値を一定に保つホルモンであるインスリンの分泌を調整する
- ⑦脂肪細胞の肥大化を抑制し、肥満を予防する
- ⑧炎症を抑制する物質をつくり、生活習慣病などの予防と改善をする …など



腸内細菌代謝産物として、短鎖脂肪酸（酢酸、酪酸など）の他に **EPS（エキソポリサッカライド）、HYA、エクオール、γ-アミノ酪酸（GABA）、ポリアミン（スペルミジン）、乳酸菌、シロタ株（L. カゼイ YIT 9029）** などがあります。

（参考文献）

*9000 人を調べて分かった腸のすごい世界～國澤純（著）*日経 BOOK PLUS

*CUMEC <https://www.cumec.site/postbiotics/> *Yakult <https://www.yakult.co.jp/yakult1000/>

●●経腸栄養時の下痢対策●●

経腸栄養に関するお困り事などあれば、栄養管理室や NST にご相談下さい。



経腸栄養の合併症には下痢、逆流・嘔吐、便秘、誤嚥などがありますが、普段、経腸栄養症例にて下痢を経験される方も多いのではないのでしょうか。今回は経腸栄養時での下痢対策についてご紹介します！

①経腸栄養以外の原因がないか確認

長期絶食による腸管吸収能低下、
抗生剤長期使用による偽膜性腸炎
内服薬の影響など..



②注入速度を落とす

必要に応じて経腸ポンプを使用

③栄養剤を変更する

- ・ペプタメンプレビオ・ペプチーノ（消化態栄養剤）
- ・アイソカルサポート（水溶性食物繊維を含む）
- ・エフツーショット（半固形）
- ・サンファイバー（水溶性食物繊維）の添加 など



④整腸剤、止痢薬を使用する

